

1 企画展

光の魔術師 インゴ・マウラー展

- 会期 平成18年4月29日(土)～5月28日(日)
- 主催等 主催：茨城県つくば美術館／読売新聞東京本社
東京ドイツ文化センター
後援：ピーバンジョア株式会社／yamagiwa
財団法人山際照明造形美術振興会
協力：DHL／ルフトハンザ／ドイツ航空
- ポスター B 2
- チラシ A 4
- 図録 日本語版カタログ
変形B 5版(237×186mm) 227頁
監修：今井美樹
翻訳：小西加那子／小西三平／酒井敦子／
今井美樹
制作協力：大阪読売サービス株式会社
発行：ExCORE
- 入場者数 5,405人
- 観覧料 一般380(320)円／高大生280(220)円／
小中生180(120)円
※()内は20名以上の団体料金
- 出品点数 122点
- 内容解説

ドイツ生まれのインゴ・マウラー(1932-)は、この約40年の間に、120以上もの照明器具や照明システムを生み出した照明デザインの巨匠である。

ドイツのデザインといえば、ドイツ工作連盟-バウハウス-スーウルク造形大学といった、20世紀なかばまでの“質と機能の融合”の追求が知られている。そうした機能的かつ合理的なものづくりとは対照的な、冒険心やユーモア、詩情といった、もう一つのドイツデザインの系譜を1960年代以降示してきたのがマウラーである。

本展は、電球そのものの美しさに注目したデビュー作【バルブ】、画期的な低電圧システムを生かしたインスタレーション【シンフォニア・シレンツィオーザ】、マウラーのシンボルともいえる【ルーチェリーノ】、爆発の瞬間を捉えたようなフォルムの【ポルカ・ミゼーリア!】など、初期から現在までの代表作を含む計126点によって、マウラーの照明デザインの世界を紹介。

本展は、日本で初めてインゴ・マウラーの全体像を紹介した展覧会であるとともに、我が国の公立美術館では数少ないプロダクト・デザインを本格的に取り上げた展覧会の一つである。展示作業は配線を含め約1週間をかけ、インゴ・マウラー社のデザイナーらと共同で構成した。

- 担当学芸員 外館和子

●関連事業

ワークショップ

「ランプシェードをつくろう」

講師 佐藤陽香(画家・造形作家)

日時 第1回 5月3日(水) 午後1時～午後4時

第2回 5月14日(日) 午後1時～午後4時

会場 講座室

ギャラリートーク

講師 今井美樹(京都造形芸術大学講師)

日時 5月6日(土) 午後2時～3時

会場 展示室

●関連記事

- ・「29日からインゴ・マウラー展」
4月7日【常陽ウィークリー】
- ・「つくばで29日開幕」
4月12日【常陽新聞】
- ・「光の魔術師インゴ・マウラー展」
4月22日【読売新聞】
- ・「インゴ・マウラー展-光の魔術師」
4月22日【常陽リビング】
- ・「Ingo Maurer:Light-Reaching for the Moon」
4月27日【The Japan Times】
- ・「来月3、14日につくばで“ランプシェード”創作」
4月28日【常陽新聞】
- ・「光の魔術師インゴ・マウラー展」
4月28日【日本経済新聞】
- ・「光の魔術師インゴ・マウラー展」
4月29日【読売新聞】
- ・「光の魔術師インゴ・マウラー展」
5月12日【読売新聞】
- ・外館和子「光の魔術師-上 ルーチェリーノ」
5月14日【茨城新聞】
- ・外館和子「光の魔術師-中 ポルカ・ミゼーリア」
5月15日【茨城新聞】
- ・外館和子「光の魔術師-下 シンフォニア・シレンツィオーザ」
5月17日【茨城新聞】
- ・「照明の先端技術が反映」
5月17日【茨城新聞】



ポスター B 2

- ・「代表作120点でたどる“光の魔術師”の世界」
5月18日【茨城新聞】
- ・「光の魔術師インゴ・マウラー展」5月24日【東京新聞】
- ・外館和子「光の魔術師 インゴ・マウラー展」
6月号【陶説】

- 関連放送
- ・「みんなの教育」 4月19日【IBS茨城放送】
- ・「スクーピーレポート&リレーレポート」
4月29日【IBS茨城放送】
- ・「スウィングレポート」 5月10日【IBS茨城放送】

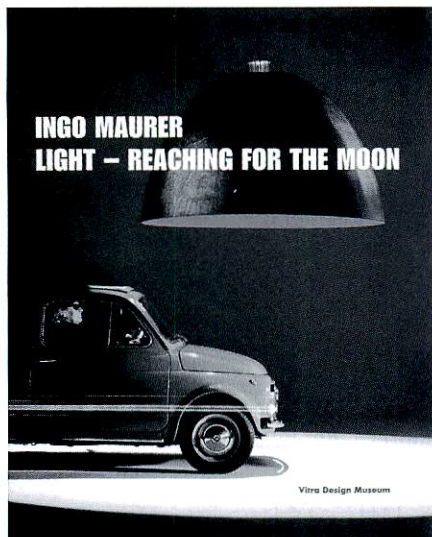


図 録



チラシ A 4

●出品作品一覧

(出品作家：インゴ・マウラー 1932年ー)

No.	作品名	制作年	
第1部			
	オールド・メンバーズ		初期の作品のインゴ・マウラー社での呼び方
001	バルブ	1966	初期の作品のインゴ・マウラー社での呼び方
002	バルブ・オパール	1966	バルブは電球のこと。“Giant Bulb”は、大きな電球
003	ジャイアント・バルブ・オパール	1966	オパールガラス製の「バルブ」
004	ポルクス	1967	ポルクス の名前はギリシア神話のゼウスの息子から付けられている。‘Lux’は、照度を表す単位で“Pollux”の中に隠されている。言葉遊び
005	シュピラーレ	1967	便宜上の呼び名：螺旋
006	ヘッドライト	1968	便宜上の呼び名：(自動車の) ヘッドライト
007	シェーレン・ランペ	1968	便宜上の呼び名：はさみ式ランプ
008	ボックス	1969	音感遊び。Polluxの言葉遊びと同じ感覚。
009	ノー・フース	1969	英語とドイツ語の言い回しによる遊び。英語では“no fuss”は「大騒ぎをしない」とか「空騒ぎをしない」ということで、他方ドイツ語では「足がない」という意味。
010	ガルブ	1969	音感遊び。
011	ビッグ・エム	1970	大きなM字
012	ライト・ストラクチャー	1970	光の構造
013	ライト・ストラクチャー・マシン	1970	光の構造の機械
014	メトロポライト	1970	言葉遊び。“metropolis”(大都会)とlight(ライト)の合成語
015	シュライプティッシュランペ	1972	便宜上の呼び名。“desk light”デスクライトのこと
016	トーマス・アルヴァ・エジソン	1979	エジソンのフルネーム
017	コートハンガー I	1966	
018-022	ウーテン・ジーロ I・II	1969/1970	言葉遊び。ラテン語系の“Utensilia”(用具)から
023, 024	灰皿	1970	便宜上の呼び名。灰皿
025	ウルマー・プルマー	1970	ドイツの都市ウルムからの音感遊び
026	バルブ・バルブ	1979	

No.	作品名	制作年	
027	ウィリー・ディリー	1983	言葉遊び
028	テーブル「ポッツブリッツ」の模型	1985	“Potzblitz” 驚いた時などに発するドイツ語の感嘆符
029	オスカー	1998	オスカーのフランス語
030	光の彫刻「バラガウディ」の模型	1997	音感遊び, スペインの建築家アントニオ・ガウディから,
031, 032	光の彫刻の模型	1995	for Les Archives du Monde du Travail, Roubaix, France労働問題資料館, ルーベ (フランス)
033	光の彫刻の模型	1998	in front of the Grand Ducal Palace, Luxembourg王宮グラン・デュカル・パレスの正面, ルクセンブルク
034	光の彫刻「シルバー・クラウド」の模型	2001	Issey Miyake's showroom, London イッセイ・ミヤケのショールーム, ロンドン
035	「水のない水族館」の模型と展示用の魚	2000/2001	for an installation in the Sparkasse Norden, Emden銀行「スバルカッセ・ノルデン」, エムデン (ドイツ)
036	公共照明の模型		アウグスブルク (ドイツ)
037	石碑の模型		
038	ペンダント照明の模型		in a cake shop in Budapest ブダペスト (ハンガリー) の菓子店
039	ホーニー・フィリップ	1997	Phillipe Starckフィリップ・スタルクの名前に因む言葉遊び, Hornyホーニーとは角のあるという意味,
040	カンパリ・ライト	2001	小さな飲料水の瓶の名前から
041	マックス・ムーバー	2000	言葉遊び—最大限に動かせることを示唆している
042	マックス・ウォール	2001	Max.Moverと同じ製品グループ
043	マックス・クーグラー	2001	Max.Moverと同じ製品グループ
044-058	写真パネル		第1部の作品などの写真パネル
059	映像: ミラノ家具フェア	2001	インゴ・マウラー, スパツィオ・クリツィア
060	映像: インゴ・マウラー展のオープニングの様子と「アート・カー」	2001	インゴ・マウラー展のオープニングの様子とフランクフルト映像美術館所蔵デヴィッド・ベスト作「アート・カー」

第2部

061	グラスル	1973	ドイツ語で「ガラスの一つの破片」
062	ディライト	1980	言葉遊び, “light” と “delight”, 喜び, 楽しみ,
063	イリオス	1983	ギリシャ語「太陽」の意
064	フクシュウ	1984	音感遊び
065	ワン・フロム・ザ・ハート	1989	
066	ドン・キホーテ	1989	有名な喜劇のヒーロの名前
067	ティジュカ/ティジュカ・ウォール	1989	ブラジルの場所の名前
068	スウィングディング	1993	言葉と音感の遊び
069	ホット・アキレ	1994	マウラーの友人, イタリアのデザイナー Achille Castiglioniアキレ・カスティリオーニの名前から,
070	ロス・ミニマロス・ウノ	1994	スペイン語, “Los Minimalos” の製品グループの一つ
071	モツキート	1996	ドイツ語と英語の言葉遊び, 英語の“mosquito”「蚊」とドイツ語の“Mücke”「蚊」と“mucken”「文句を言う」の合成
072	スタンド・アップ・フォー・ユア・ライト	1998	
073	ポプ	2000	丸い感じのする男性名
074	ヤ・ヤ・ホ	1982	音感遊び
075	インスタレーション<シンフォニア・シレンツィオーザ>	1999	イタリア語の音感, 「無口な交響曲」
076	映像: Issei Miyake 1999-2000 秋冬コレクション (約5分)		Presented in Paris with light installation Symphonia Silenziosa by Ingo Maurer.インゴ・マウラー<シンフォニア・シレンツィオーザ>による光のインスタレーション

第3部

	(077, 78)		
079	オー・メイ・マ	1993	アラブの女性の名前から
080	ツェツツル5	1997	ドイツ語の「紙きれ」から
	シリーズ照明<マモ・ノーチェス>	1998	マウラー “Maurer”, モンバッハ” Mombach”, イサム・ノグチ” Noguchi” の名前を組み合わせている, このシリーズの名前はアフリカの言葉や日本語が単純な音でつくられている,
081	ココロ		
082	ヴォ・トム・ブ1		
083	ヴォ・トム・ブ2		
084	ヴォ・トム・ブ3		
085	イムケン		
086	イーズメン		
087	ブル・ブル		
088	サムライ		
089	マーブルーキー		
090	ザ・トライブ		
091	ガク		
092	ベリッシマ・ブルッタ	1997	イタリア語 “The most beautiful ugly one”
093	ヨーフードウー	1997	音感と綴りの遊び

No.	作品名	制作年	
094	スターダスト	2000	
095	リヒテンシュタイン	2001	ドイツ語の“licht” 光」とヨーロッパのリヒテンシュタイン公国との音遊び
096	LEDのテーブルクロス	2001	
097	LEDの壁紙	2001	
098	エル・イー・ディー	2001	“LED” のドイツ語や英語の発音を綴ったもの
099	フローラ・ディー	2001	“ELE.Dee” と同じく発音を綴ったもので、“Flora” は“flower” を反映している
100	光のプロトタイプ	2001	
101	ハニカム・プロトタイプ	2001	
102	LEDの花嫁衣裳	2000/2002	
103	LEDの花婿衣裳	2000/2002	
104, 105	LEDの帽子	2002	
106	LEDのテーブル	2003	
107	リースター	2003	ドイツ語でシャンデリア
108	ボルカ・ミゼリア!	1994	驚いたり、落胆したり、怒ったりしたときに発するイタリア語の感嘆符
109	フライ・キャンドル・フライ!	1996	「飛べ、ろうそく、飛べ!」
110	写真パネル：バラガウディ		Lighting for the conference room of Caja, España, León, Spain. 銀行「カハ・エスパーニャ」の会議室照明、レオン（スペイン）
(111)			
112	ヘンリー・ハドソン・ドーム	2000	あるホテルをデザインした後で名前がつけられた
113	エックス・エックス・エル・ドーム	1999	XXL:very very largeサイズ表記のもじり
第4部			
114	ビビビビ	1982	小さな鶏の意味の音感
115	君はどこ、エジソン... ?	1997	
116	ホロンツキ	2000	ホログラムからのドイツ語の言葉遊び
117	インスタレーション ＜ハンギング・バルブ＞		
118	インスタレーション ＜タブロー・シノワ＞		フランス語で「中国風絵画」
	-119		
120	インスタレーション ＜ルーチェリーノ＞	1992	イタリア語の言葉遊び。“luce”（ルーチェ）「光」と“uccellino”（ウチェリーノ）「小さな鳥」
	(121-122)		
123	バーズ・バーズ・バーズ	1992	英語 「鳥、鳥、鳥」
124	バーディー	2002	英語の幼児語「トリちゃん」
125	写真パネル＜ルーチェリーノ＞		
126	映像：インゴ・マウラー		リュミネール（照明装置）、照明システム、照明コンセプト、光の彫刻

遠藤彰子展 Akism—生命を謳う

- 会期 平成18年7月21日(金)～8月27日(日)
- 主催 茨城県つくば美術館
- ポスター B2 ●チラシ A4
- 図録 297×221mm 107頁
編集：舟木力英(茨城県つくば美術館分館長)
デザイン：水家実和子(茨城県つくば美術館嘱託)
発行：茨城県つくば美術館

- 入場者数 4,978人
- 観覧料 一般380(320)円／高・大生280(220)円／
小・中生180(120)円
※()内は20名以上の団体料金

●出品点数 99点

●内容解説

1947年東京生まれの遠藤彰子は、現在、具象絵画の世界で最もエネルギッシュな制作活動を展開している団塊世代の女性画家である。

1970年代から、女流画家協会展や二紀展に出品し、安井賞をはじめ、数々の受賞を重ね、その作品は、今日、美術教科書にも紹介されている。

ダイナミックな構図の中に、人間や動物、大人や子供など、生きとし生ける者のさまざまな姿を描き込む作品は、生きることの限りない豊饒を語り、生命の飽くなき力強さを讃えている。迷路を思わせる、縦横無尽の画面には、誰もが記憶のどこかにとどめおく懐かしい世界が描かれている。

会場には500号以上の大作を中心に、1000号、1500号の巨大絵画が並び、観る者を圧倒する。

本展では、大型油彩画計49点に新聞連載の挿図原画を併せて展示、週末毎に作家も来館し、来場者は直接作家と語るチャンスにも恵まれた。

●担当学芸員 舟木力英

●関連事業

スペシャルトーク

講師 針生一郎(美術評論家)／遠藤彰子(画家)

日時 7月23日(日) 午後2時～3時

会場 展示室

記念講演会

「私の美術人生」

講師 遠藤彰子

日時 7月29日(土) 午後1時30分～3時

会場 アルスホール

ギャラリートークⅠ

「作者が語る」

講師 遠藤彰子

司会・進行 舟木力英(つくば美術館分館長)

日時 8月6日(日) 午後1時30分～3時

会場 展示室

ギャラリートークⅡ

「学芸員が語る」

担当 舟木力英(つくば美術館分館長)

日時 8月12日(日) 午後1時30分～3時

会場 展示室

●関連記事

・「遠藤彰子展Akism—生命を謳う」

7月1日【常陽リビング】

・「パワフルな画業の全貌」 7月17日【茨城新聞】

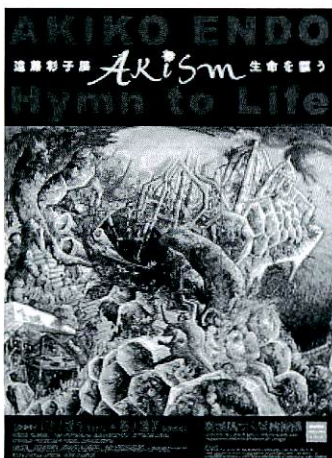
・「遠藤彰子展きょう開幕」 7月21日【茨城新聞】

・「Akism生命を謳う」 7月21日【常陽ウィークリー】

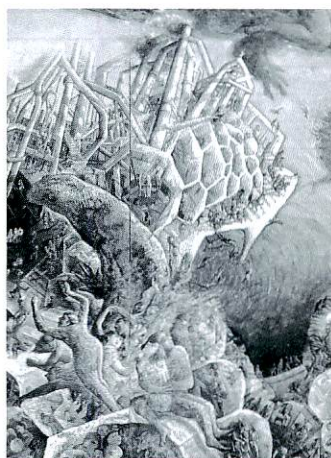
・「巨大絵画で生命表現」 7月22日【朝日新聞】

・「系統立てて分類展示」 7月26日【常陽新聞】

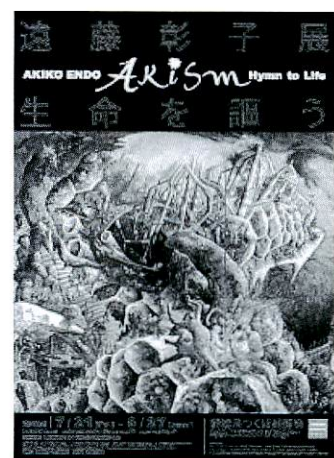
・舟木力英「遠藤彰子の世界1楽園」 8月2日【茨城新聞】



ポスターB2



図録



チラシA4

- ・舟木力英「遠藤彰子の世界 2 遠い日」 8月4日【茨城新聞】
- ・舟木力英「遠藤彰子の世界 3 見つめる空」 8月6日【茨城新聞】
- ・舟木力英「遠藤彰子の世界 4 私は来ている此処に、何
度も」 8月7日【茨城新聞】
- ・舟木力英「遠藤彰子の世界 5 見しこと」 8月9日【茨城新聞】
- ・「飽くなき生の記録」 8月9日【茨城新聞】
- ・田中三蔵「あふれる動きと生命感」 8月15日【朝日新聞（夕刊）】
- ・「遠藤彰子展Akism—生命を謳う」 8月16日【茨城新聞】
- ・外館和子「教科書作家と現代のダイナミズム」 10月1日【新美術新聞】

●関連放送

- ・「スウィングレポート」 8月2日【IBS茨城放送】
- ・「ラジサタマガジンミュージアムガイド」 8月19日【IBS茨城放送】

●出品作品一覧

(出品作家：遠藤 彰子 1947年ー)

No.	作品名	制作年	技法・材質・形状等	サイズ(縦×横)cm	所蔵先
1	私は来ている此処に、何度も	1990	油彩・画布	248.5×333.3	
2	見しこと	2006	油彩・画布	333.3×497.0	
3	街(たそがれ)	1982	油彩・画布	130.3×162.1	
4	駅	1980	油彩・画布	130.3×162.1	
5	楽園の住人たち	1974	油彩・画布	130.3×193.9	
6	楽園の住人たち	1974	油彩・画布	76.0×160.0	
7	楽園	1976	油彩・画布	130.3×162.1	
8	音楽	1975	油彩・画布	130.3×162.1	
9	楽園	1975	油彩・画布	73.5×158.0	
10	部屋	1976	油彩・画布	162.1×130.3	
11	海へ	1976	油彩・画布	64.0×159.5	
12	街	1979	油彩・画布	182.5×217.5	
13	街	1982	油彩・画布	145.5×112.1	
14	明日	1988	油彩・画布	129.3×162.0	
15	朝の訪れ(三幅対)	1980	油彩・画布	130.5×260.5	
16	迷宮の街	1983	油彩・画布	193.9×222.0	相模原市
17	街(Street)	1983	油彩・画布	193.9×259.1	横浜美術館
18	遠い日	1985	油彩・画布	193.9×259.1	東京国立近代美術館
19	微風	1991	油彩・画布	162.1×162.1	
20	入江の笛	1991	油彩・画布	130.3×259.1	
21	たそがれの辺り	1999	油彩・画布	162.1×162.1	
22	光景の馬	2004	油彩・画布	130.3×130.3	
23	ゆふぐれの果実	1992	油彩・画布	162.1×259.1	東京国立近代美術館
24	しじまの街	2006	油彩・画布	130.3×130.3	
25	午睡	1990	油彩・画布	162.1×162.1	
26	星	1995	油彩・画布	162.1×162.1	彫刻の森美術館
27	佳日	2005	油彩・画布	292.3×130.3	
28	揺れる風	1998	油彩・画布	162.1×162.1	
29	岐路	1984	油彩・画布	193.9×259.1	
30	私の街	1981	油彩・画布	193.9×259.1	
31	光景	1986	油彩・画布	193.9×297.5	府中市美術館
32	ひとり午後にささやく	1988	油彩・画布	241.5×290.9	
33	都会	1980	油彩・画布	193.9×259.1	相模原市
34	河に溶ける赤い蛇	1996	油彩・画布	333.3×248.5	
35	地図にはあらぬⅡ	1997	油彩・画布	291.0×218.0	
36	死なむな夢	1995	油彩・画布	333.3×218.2	
37	西方の夢	2000	油彩・画布	333.5×250.5	
38	海匂ふそら	1999	油彩・画布	333.3×248.5	
39	黄昏の笛は鳴る	1991	油彩・画布	248.5×333.3	
40	みつめる空	1989	油彩・画布	248.5×333.3	相模原市
41	HORIZON(ホライズン)	1995	油彩・画布	248.5×333.3	
42	呼び声はときを揺らす	1994	油彩・画布	248.5×333.3	
43	庭園に陽射しおり	1992	油彩・画布	248.5×333.3	
44	薔薇窓に影ほのめく	1993	油彩・画布	248.5×333.3	
45	遠い静けさ(3点1組)	2002-2004	油彩・画布	333.5×745.5	
46	空掠める翼	2004	油彩・画布	333.3×248.5	
47	翳をくぐる鳥	1997	油彩・画布	333.3×248.5	
48	参=壱	2001	油彩・画布	333.3×248.5	
49	眠りつづける木	1998	油彩・画布	333.3×248.5	
50-99	『讃歌』挿図より 50点	2004-2005	鉛筆・色鉛筆・水彩・紙	14.2×21.9 他	

茨城県近代美術館コレクション展 —新収蔵品を中心に—

- 会期 平成18年9月30日(土)～10月29日(日)
- 主催 茨城県つくば美術館
- ポスター B 2
- チラシ A 4
- 入場者数 2,915人
- 観覧料 一般180(140)円／高・大生110(80)円／
小・中生80(50)円
※()内は20名以上の団体料金

●出品点数 53点

●内容解説

現在、茨城県近代美術館が所蔵している約1,700件の作品の中から、この10年に収蔵された作品を中心に、油彩画・日本画・水彩画・版画・素描など、平面作品53点を紹介した。

出品作家については、中村彝、安井曾太郎、林武など近代洋画の巨匠、小堀進、中西利雄ら近代水彩画を代表する作家をはじめ、石井武夫、小田野尚之、田中良、玉川信一、柳田昭など、茨城県南地域ゆかりの現代作家や、それぞれのジャンルで現在活躍中の作家を含めて紹介した。また、日本画については、天心記念茨城賞受賞作を多く展示した。

茨城県は南北に広く、普段、水戸の近代美術館で常設展をみる機会の少ない県南地域の県民を中心に、近代美術館収蔵品を鑑賞する機会を提供するとともに、つくば美術館ならではの作品選定、テーマ設定により、収蔵品を、より効果的に楽しんでいただく展覧会となった。

特に、現代絵画は、日本画・洋画とも大作の傾向にあるが、天井高5.7メートルのつくば美術館の空間を生かし、ゆったりとした鑑賞環境となった。

さらに、近年新しい作品の収蔵の割合が増えつつあるなど、収集の動向も実物によって示す展覧会とした。

●担当学芸員 外館和子

●関連事業

屋外ワークショップ(生涯学習フェスティバル参加事業)
「模様でつくる」

日時 10月8日(日) 午後1時～4時30分
会場 屋外展示場

ギャラリートーク

「コレクションのみどころ」

担当 外館和子(つくば美術館主任学芸員)
日時 10月15日(日) 午後2時～
会場 展示室

●関連記事

- ・「近代美術館コレクション展」
9月8日【常陽ウィークリー】
- ・「県近代美術館コレクション展～新収蔵品を中心に」
9月22日【読売新聞】
- ・「茨城県近代美術館コレクション展—油彩画・日本画・水彩画など54点」
9月23日【常陽リビング】
- ・「茨城県近代美術館コレクション展—新収蔵品を中心に」
9月29日【日本経済新聞】
- ・「茨城県近代美術館コレクション展」
9月30日【常陽リビング】
- ・「新収蔵作品54点紹介」
10月5日【茨城新聞】
- ・「郷土作家の作品多数展示」
10月5日【常陽新聞】

●関連放送

- ・「ラジサタマガジンミュージアムガイド」
9月30日【IBS茨城放送】
- ・「スウィングレポート」
10月11日【IBS茨城放送】



ポスターB 2



チラシA 4

● 出品作品一覧

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横)cm
1	熊谷守一	(パリ個展ポスター)	1964	リトグラフ・紙	66.2×50.2
2	浜口陽三	黒いさくらんぼ	1960	メゾチント・紙・額装	20.0×27.0
3	飯野農夫也	藁はこび	1975	木版・紙・額装	58.0×90.0
4	秋山 静	87-M-1 ブルーホリゾン	1987	木版・紙・額装	60.0×100.0
5	高森登志夫	風景'99	1999	リトグラフ・紙・額装	17.0×38.0
6	中村 彝	目白の冬	1920	油彩・麻布・額装	45.5×60.6
7	安井曾太郎	薔薇	1923	油彩・麻布・額装	54.9×46.0
8	保田龍門	男(習作)	1913-14	油彩・麻布・額装	64.5×48.0
9	青山義雄	赤い雌牛	1925	油彩・カルトン・額装	47.4×73.0
10	林 武	雉の静物	1931	油彩・麻布・額装	61.4×80.3
11	鈴木良三	隣の老人	1930頃	油彩・麻布・額装	81.0×65.5
12	朝井閑右衛門	道化	1958	油彩・麻布・額装	80.0×53.0
13	田村孝之介	空母	1943	油彩・麻布・額装	112.0×162.0
14	本郷 惇	窯場	1977以前	油彩・麻布・額装	71.3×89.7
15	服部正一郎	奥久慈風景	1972頃	油彩・麻布・額装	64.0×80.0
16	榎戸庄衛	筑波山	1956以前	油彩・麻布・額装	128.6×192.2
17	櫻田精一	水温む	1997	油彩・麻布・額装	130.3×194.0
18	麻生三郎	男	1940	油彩・麻布・額装	91.0×72.7
19	鶴岡義雄	祇園(A)	1993	油彩・麻布・額装	215.0×291.0
20	鶴岡義雄	EMOTION I	1995	油彩・麻布・額装	215.0×333.0
21	村山 密	室内	1952	油彩・麻布・額装	116.7×90.9
22	田中 良	北の浜辺	1981	油彩・麻布・額装	130.3×193.9
23	益子昭雄	Conductor-Op87	1987	油彩・麻布・額装	162.0×130.5
24	林 敬二	梨のようにならぶ二人	1983	油彩・麻布・額装	181.8×227.3
25	吉田正雄	方舟何処へ	1992	油彩・麻布・額装	227.3×227.3
26	石井武夫	DUMMY	1976	油彩・麻布・額装	227.3×181.8
27	片小田栄治	地DIRTY COLLECTION I	1993	油彩・合板パネル	179.5×227.0
28	玉川信一	雨の木	1996	油彩・コラージュ・麻布・額装	274.1×193.9
29	速水御舟	燕子花	1923	紙本・彩色・額装	31.0×51.0
30	鎌木清方	汐路のゆきかい	1959	絹本・彩色・額装	57.5×62.6
31	川崎小虎	夕月桌	1970-75	紙本・墨画・額装	47.0×56.0
32	小林巢居人	溪水	1957	絹本・彩色・額装	148.3×117.5
33	浦田正夫	池	1978	紙本・彩色・額装	150.0×186.0
34	森田曠平	波止場	1994	紙本・彩色・額装	89.2×40.7
35	村田 猛	五浦	1989	紙本・彩色・額装	214.1×162.5
36	福王子法林	白光のヒマラヤ	1991	紙本・彩色・額装	200.0×728.0
37	川崎春彦	襲	1998	紙本・彩色・額装	172.0×215.0
38	鎌倉秀雄	誘惑	1976	紙本・彩色・額装	179.0×222.5
39	小谷津雅美	終宴	1998	紙本・彩色・額装	225.0×180.0
40	川瀬磨士	山	1997	紙本・彩色・額装	174.0×218.0
41	菊川三織子	花影	1995	紙本・彩色・額装	210.0×168.0
42	齋藤満栄	秋晨	2000	紙本・彩色・額装	172.0×217.0
43	西田俊英	寂光	1996	紙本・彩色・額装	218.0×172.0
44	高橋秀年	清夜	1999	紙本・彩色・額装	224.0×179.0
45	川崎麻児	廻廊にて	2000	紙本・彩色・額装	180.0×180.0
46	小田野尚之	見送る人	2002	紙本・彩色・額装	169.8×214.8
47	岡田眞治	冬のベネチア	2003	紙本・彩色・額装	215.0×170.0
48	中西利雄	アンギャン	1930頃	水彩・紙・額装	56.2×76.5
49	小堀 進	霞ヶ浦	1973	水彩・紙・額装	67.5×102.0
50	酒泉 淳	陶房の一隅	1956	水彩・紙・額装	109.0×77.0
51	田中 実	ヴァイオリンを持つ女	1950	水彩・紙・額装	109.0×78.6
52	鈴木信男	拱門	1994	水彩・麻布(石膏で下塗り)・額装	193.9×130.3
53	柳田 昭	水温む頃	1996	水彩・グワッシュ・麻紙・額装	161.1×227.3

2 貸ギャラリーによる展覧会

創作活動の発表の場を提供し、地域の文化の振興に寄与する目的から、展示室を一般に貸し出し、貸しギャラリーによる展覧会を実施している。

会 期	展 覧 会 名	展 示 内 容	入館者数
4/4(木)～4/9(日)	『モア・キルト』 ミシン・デ・キルト展	ひたちなか市在住の長谷川幸子氏が主催する教室『モア・キルト』の作品展。国内でめずらしい100%ミシンで制作するトラディショナルキルトの作品、ベッドカバーやタペストリーなどを展示。なかには2年がかりで制作するという大作もあった。 [出品者数 35名 作品数 50点]	
	第20回 フォトサークル土浦写真展	土浦市で活動する「フォトサークル土浦」の作品展。風景写真や動植物のクローズアップ、モノクロ・プリントなど、会員それぞれのテーマをもった組作品を展示。今回は20回を記念して会員18名が「それぞれの土浦」として1点ずつ展示した。 [出品者数 18名 作品数 124点]	2,027人
4/11(木)～4/16(日)	第23回 茨城現展	現代美術家協会の茨城支部の作品展。茨城支部会員を中心に本部や一般会員が制作した、絵画・デザイン・工芸・彫刻・写真等、多種多様な作品を展示。支部会員がグリーンをテーマ色にしてそれぞれ自由に制作した作品を会場で1枚の絵に合体した合同作品も出品。 [出品者数 50名 作品数 91点]	929人
6/6(木)～6/11(日)	全日本写真連盟 第12回常総支部写真展	全日本写真連盟・常総支部の作品展。会員が1年間に撮影した写真の中から厳選した自信作を展示。テーマは自由で、筑波山や棚田の田植え、満開のラベンダー畑などの四季折々の風景や、カンボジアの僧侶、女性のスナップなどバラエティーに富んでいた。 [出品者数 23名 作品数 103点]	
	君光と門人たち展	守谷市の日本画家・北尾君光氏が主催する「君光画友会」の作品展。北尾氏の日本画、陶芸作品とメンバーの日本画、色紙絵を展示。また、氏が指導する龍ヶ崎市知的障害者デイサービスセンター「ひまわり園」の生徒のアクリル画や陶芸の作品も出品された。 [出品者数 73名 作品数 169点]	1,947人
6/13(木)～6/18(日)	第4回 現代童画会つくば地区展	新しい童画（ナイーブアート）の創造と発展を目指して32年前に結成された公募団体「現代童画会」のつくば地区の展覧会。中央の現代童画会展に出品した130号の大作をはじめ、絵画のもつ純粹さや素朴さ、詩情などを求めそれぞれが自由に表現した作品を展示。 [出品者数 14名 作品数 70点]	

会 期	展 覧 会 名	展 示 内 容	入館者数
	第2回 極美選抜展	公募団体「新極美術協会」の会員と、一般公募の応募者を含めて審査をし厳格に選抜された作品展。具象、非具象にとらわれず独創性を高めることを目的に、それぞれが精力的に制作した油彩画、水彩画、版画、皮革画、水墨画、絵はがきの作品を展示。 [出品者数 66名 作品数 79点]	1,400人
6/20(火)～6/25(日)	加藤肇司展／游画会・あさぎり会合同展	石岡市在住の画家・加藤肇司氏の作品展と、加藤氏の指導を受けている游画会・あさぎり会の会員たちによる合同の展覧会。加藤氏はドローイングやペインティング、コラージュによる作品40点を展示し、合同展は油彩画を中心にミクストメディア・パステルによる作品を展示。 [出品者数 13名 作品数 130点]	894人
6/27(火)～7/2(日)	XIIth ART WAVE TSUKUBA 2006	それぞれが、独自で追求したものを分野を超えて認め合い刺激し合い、国籍や年齢、プロ、アマの枠もなく評価しあうことを目的に、多彩なジャンルの作家達が集った作品展。日本画、洋画、立体、書、篆刻、彫刻、工芸、陶芸、染織、写真、CG、人形を展示。 [出品者数 55名 作品数 125点]	1,101人
7/4(火)～7/9(日)	第12回 清明21美術協会展	清明21美術協会は、日展会友の本堂清氏を講師に、水墨画の千代田水墨会・社教文人会・つくば西会・清明会・紫翠会・六墨会と、油絵の油遊会・ポプラの会からなる8つの同好会で結成。会員それぞれが1年間制作した中から選んだ油絵・水墨画等を展示。 [出品者数 94名 作品数 184点]	947人
8/31(木)～9/3(日)	写真集団ピン歩気写真展 魅せられてIX	取手市周辺の写真愛好家で結成された「写真集団ピン歩気」の会員による展覧会。小さな昆虫や草花、国内や海外の旅行時に写した作品などを展示。それぞれが思い思いに額装したりインスタレーション風に飾ったりと展示方法も工夫。 [出品者数 22名 作品数 98点]	
	19 colors つくばビジネスカレッジ専門学校 CGデザイン学科生徒作品展	CGデザイン学科生徒による作品展。基礎として学ぶデッサン・水彩デッサンをはじめ、広告企画展開・CGデザイン画・オリジナルキャラクター展開・3Dムービー・実際の商品展開を想定した商業デザインのほか、筑波観光鉄道(株)から依頼を受けてデザインしたTシャツ・ステッカーも展示。 [出品者数 23名 作品数 約70点]	897人
9/5(火)～9/10(日)	彫刻 in 茨城	80回記念国展彫刻部企画事業の一環として「2006彫刻イヤー 彫刻と社会」をテーマに、彫刻 in 茨城担当委員会により企画された展覧会。国展本展にも匹敵する作品を全国の国画会彫刻部有志が出品。また、茨城に在住していた物故会員の鈴木実氏のデッサンも特別展示された。 [出品者数 44名 作品数 45点]	612人

会 期	展 覧 会 名	展 示 内 容	入館者数
9/12(火)～9/18(月)	第6回 7つの写真グループの展覧会	阿見町在住の写真家・高野経将氏に指導を受けている「グループ写遊」「フォトクラブあみ」「SHARAKU」「守谷フォトクラブ」「阿見フォトサークル」「都和ふおとくらぶ」「にいはりフォトクラブ」の7つの写真グループが一堂に会し、1年間の集大成として作品を発表する展覧会。今回は写真家・石毛正昭氏の作品を特別展示。 [出品者数 95名 作品数 246点]	1,719人
9/20(水)～9/26(火)	第10回 紫流書道会展	書家・興水紫石氏が主宰する「紫流書道会」と「くりっこ書道教室」の会員による展覧会。漢字・かな・調和体・篆刻や、俳句や詩のイメージに合わせた額装作品、巻紙や掛け軸、子供たちの伸び伸びとした条幅作品など、大小さまざまな書を展示。 [出品者数 47名 作品数 103点]	
	「異次元への時間」面展	阿見町在住の奥山欽哉氏の作品展。「木目の美しさを生かしたい」と、面の肌部分に塗料を塗らないのが特徴で、カヤやヒノキ、ヒバなど、木の素材を生かした創作面を展示。伝統的な技術を基本に、現代に生きる人の心の内を創作面で表現、作品は小面（こおもて）、真女（しんじょ）、般若（はんにゃ）など。 [作品数 36点]	1,192人
11/2(木)～11/5(日)	第3回 鈴木美津子トールペイント教室作品展	鈴木美津子氏が茨城、千葉で開講しているトールペイント教室、9クラスの合同作品展。トールペイントの枠を幅広くとらえ、家具、生活雑貨、衣服など様々な素材に絵付けしたものから、器への絵付け白磁ペイント、漆器、ポーセラーツ作品を多数展示。 [出品者数 34名 作品数 410点]	
	第10回記念 七彩会展	つくば市在住の日本画家、大坪由明氏が指導する日本画教室「七彩会」の作品展。風景、仏像、人物、生物、花など各自得意のテーマで描いた作品を出品。第10回を記念して、それぞれの作品の特徴がわかるように各自6メートルの壁面を使った展示。 [出品者数 18名 作品数 90点]	1,430人
11/7(火)～11/12(日)	第25回 茗溪学園美術展	茗溪学園中学校、高等学校の美術授業作品、個人課題研究作品、美術部作品、写真部作品、書道部作品など1年間の生徒作品を中心に、父母や教員、卒業生の作品も展示。関連行事としてコンサートやギャラリー・トーク、書道パフォーマンスなどが行われた。 [出品者数 872名 出作数 約1,300点]	2,283人
11/14(火)～11/19(日)	第22回 筑波大学大学院修士課程芸術研究科洋画・日本画・版画作品展 (MC展)	筑波大学大学院修士課程芸術研究科の洋画、版画分野、日本画分野の学生1、2年生による作品展。それぞれの分野において、互いに刺激し合いながら技術や表現力を高めるべく日々制作と研究をかさねている、洋画20名、版画5名、日本画16名の力作を展示。 [出品者数 41名 作品数 56点]	1,273人

会 期	展 覧 会 名	展 示 内 容	入館者数
11/21(火)~11/26(日)	「幕末維新の名士」書幅・書額展	肥後細川家の末えいでもある利根町在住の橋本秀孝氏が、これまでに集めた幕末維新の名士たちの貴重な資料、吉田松陰や坂本龍馬、勝海舟の直筆書や肖像画などを有料展示。入館料は新潟県中越地震の義援金として寄付された。 [出品数 77点]	
	第11回 つくば太湖の会水墨画展	筑波大学的水墨画公開講座の修了生を中心に平成7年に結成された「つくば太湖の会」の作品展。大竹卓氏の指導により、技法だけでなく背景となる歴史や考え方を学びながら水墨画に取り組んでいる。伝統的な山水画、色をきっちり塗る工筆画、自由な筆致の写意画など幅広い技法の作品を展示。 [出品者数 16名 作品数 59点]	1,320人
11/28(火)~12/3(日)	第61回 県南高等学校連合美術展	県南地区の高等学校の交流と親睦を目的とした展覧会で22校が参加した。美術部員の油彩・水彩・デッサン・彫刻・デザインなど様々な技法の個人作品と合同作品が展示された。高校生の若いエネルギーを感じさせる力のはいった作品が会場を埋め尽くした。最終日には講評会が行われた。 [出品者数 約270名 作品数 364点]	706人
12/5(火)~12/10(日)	第6回 常総陶芸展	守谷市とその近隣で陶芸に取り組む人たちが技術向上を目指して結成した「常総陶芸研究会」が主催する公募展。会員と一般応募者、審査員による絵皿や壺など多彩な作品を展示。また、現代の備前焼・萩焼を代表する陶芸家10人の作品も特別展示された。 [出品者数 43名 作品数 69点]	
	佐藤洋子展一風の記憶一	桜川市出身で埼玉県在住の画家。故郷での初個展で、150号からサムホールまで最近の作品を中心に出品。「地球の大気の中で繰り返し続いている生命を謳う」をテーマに抽象的な形を多重層に重ねた透明感のあるアクリル画を展示。 [作品数 63点]	692人
12/12(火)~12/17(日)	第10回 松陽美術科展「一期一絵」	茨城県立取手松陽高等学校美術科の作品展。油絵や日本画、ビジュアルデザイン、クラフトデザイン、彫刻などの授業作品や生徒の柔軟な発想で作られた卒業制作を展示。また美術科教職員の作品と、今回は姉妹校である鹿児島県立松陽高等学校の生徒作品も展示。 [出品者数 111名 作品数 122点]	903人
12/19(火)~12/24(日)	ドローイングをめぐって	ドローイングを美術的に定義付けることなく、平面・立体・素材・展示方法等を限定しないで、「これが私のドローイングである」という作品を個展形式で展示。出品作家は、石田泰道、岩堀敏行、小澤基弘、笹井祐子、佐藤杏子、渋谷和良、高須賀昌志、舘野弘、西成田育男、西成田洋子、野沢二郎、藤原ゆみこ、真鍋武、山中宣明、山本一樹、横尾哲生。 [出品者数 16名 作品数 327点]	689人

会 期	展 覧 会 名	展 示 内 容	入館者数
12/26(月)～1/8(月)	第3回 筑波大学大学院博士課程 芸術学専攻作品展 (DC展)	造形美術について理論から実践まで日々研究、制作に取り組んでいる芸術学専攻の洋画7名・日本画3名・書道2名による作品展。20～40代までの学生は公募展での入賞や、個展、グループ展等で学外でも活躍しており、個性豊かな大作が並ぶ展示となった。 [出品者数 12名 作品数 43点]	1,231名
1/11(木)～1/14(日)	第3回 ラパン展	守谷市在住の洋画家・渡邊丞氏が主催する油絵グループの35名のメンバーによる合同作品展。ラパンはフランス語でウサギ、「飛躍」の意味をこめて名づけられた。人物や風景画、抽象画など、さまざまなテーマで描かれた作品を展示。 [出品者数 35名 作品数 75点]	591名
1/16(火)～1/21(日)	第3回 日本プロフェッショナル アートアカデミー作品展	つくば市の絵画教室「日本プロフェッショナルアートアカデミー」で美術を学ぶ生徒の作品展。子どもから大人まで、幅広い年代の人たちが、石膏デッサンや、風景画、人物画など、のびのびとていねいに様々な技法で描いた作品を発表。 [出品者数 29名 作品数 67点]	909人
	朴 再英展 in つくば	韓国人の女性版画家、朴再英（パクジェヨン）氏の作品展。韓国の美大を卒業後、武蔵野美大や東京芸大の大学院で学び、現在日本に在住して活動。心的世界を自在な形で描き刻んだ深い色合いの木版画、1990年代から2006年までの作品を展示。 [作品数 77点]	1,733人
1/23(火)～1/28(日)	悠響書展	つくば市の書家、松川昌弘氏が指導する松華会・桜雲会・セイカ会の合同作品展。5年ぶりの開催で、今回は「心」をテーマに、各自がのびのびと書いた篆・隸・楷・行・草・仮名などを、葉書大から畳20畳大、屏風、額装等、様々な形式で会場いっぱい展示。 [出品者数 132名 作品数 144点]	2,293人
1/30(火)～2/4(日)	第15回 つくば市文化協会芸術展	市内の公民館で活動する団体が加入している、つくば市文化協会の作品展。絵画・書道・陶芸・写真・手工芸と、それぞれの分野で一人ひとりが日常生活の合間に努力を重ね制作した一年間の成果を発表。今年は、パンフラワー、プラント・ドール、ちぎり絵、押し花、草木染などのサークルも初参加。 [出品者数 349名 作品数 349点]	
2/6(火)～2/11(日)	2007 筑波大学芸術専門学群卒業 制作展 (前期)	美術専攻 [洋画コース, 日本画コース, 彫塑コース, 書コース, 版画コース], 芸術学専攻の卒業制作を展示。11日には、「筑波大学卒展にみる<現代>」と題して建島哲氏, 遠藤彰子氏, 主任学芸員による、茨城県つくば美術館スペシャル会場トークが行われた。 [出品者数 46名 作品数 102点]	3,549人 (前期・後期あわせて)

会 期	展 覧 会 名	展 示 内 容	入館者数
2/13(火)～2/18(日)	2007 筑波大学芸術専門学群卒業制作展 (後期)	構成専攻 [総合造形領域, 構成領域, ビジュアルデザイン領域, クラフト領域], デザイン専攻 [情報デザイン領域, プロダクトデザイン領域, 環境デザイン領域, 建築デザイン領域] の卒業制作を展示。18日には、「筑波大学卒展にみる〈現代〉」と題して渡部誠一氏, 井上雅之氏, 主任学芸員による, 茨城県つくば美術館スペシャル会場トークが行われた。 [出品者数 65名 作品数 74点]	
2/20(火)～2/25(日)	2007 筑波大学芸術研究科修了制作展	筑波大学大学院修士課程芸術研究科の美術専攻 [洋画分野, 日本画分野, 彫塑分野, 書分野], デザイン専攻 [総合造形分野, 構成分野, 視覚伝達デザイン分野, 生産デザイン分野, 環境デザイン分野, 建築デザイン分野] の修了制作を展示。 [出品者数 69名 作品数 112点]	1,904人
2/27(火)～3/4(日)	第6回 チャレンジアートフェスティバル in つくば	「アートは障害を越える」をテーマに, 障害者が制作した絵画や書, 陶芸などの作品を展示。関連企画として, 館内で「つくばライアーの響き」の演奏会やミニコンサート, 講座室でワークショップ「動くアートロボットを作ろう」が行われた。 [出品者数 292名 作品数 262点]	1,223人
3/6(火)～3/11(日)	第28回 東光会茨城支部展	「東光会」茨城支部のつくばでは初めての展覧会。支部会員70名と, 特別出品として森田茂氏の作品も展示。人物, 風景, 静物などの具象的なモチーフを追究した100号以上の大作ばかりで, なかには本部展に出品される予定の作品も展示された。 [出品者数 71名 作品数 71点]	1,437人
3/13(火)～3/18(日)	第9回 アートシャワー絵画展	県南地域で絵画活動をする「アートシャワー」のメンバー20人による展覧会。50号から100号の人物や風景などをモチーフにした油彩画を展示。様々な公募展に出品する作家が多く, 今回は県展などで入賞, 入選した作品も展示した。 [出品者数 20名 作品数 40点]	
	第5回 彩光展	水彩画で大作に取り組む者達が集まり発足した「彩光会」の展覧会。会員は茨城県広域と千葉県などで散らばっているが年1回作品の発表を目的に, それぞれが切磋琢磨しながら制作している。水彩, アクリル, ペン, パステルで描いた人物画や風景画などを展示。 [出品者数 18名 作品数 42点]	1,824人
3/20(火)～3/25(日)	心地いい庭 vol.2 ガーデンデザイン展	ひたちなか市在住のガーデン・デザイナー吉川和雄氏の作品展。今年は「スローライフ, スローガーデン」を副題に庭のあるすばらしさを提案した展示。氏の2006年度グッドデザイン賞 (建築・環境デザイン部門) 受賞作や, 施工中の庭をパネルや模型で紹介。 [作品数 14点]	699人